

## 写真集にのらない天体写真(1)

### 堂平の全天写真

天体写真には珍しいものが多いが、だからといってなんでも写真集にのせたり引き伸して飾れるものばかりではない。珍らくはあっても見映えはせず、役目を終えた途端、資料棚に整理されてしまうものだったたくさんある。そういう写真を取りだして、もう一度眺め、撮された目的や苦労話が聞きたい。それがこの欄の目標である。

\* \* \*

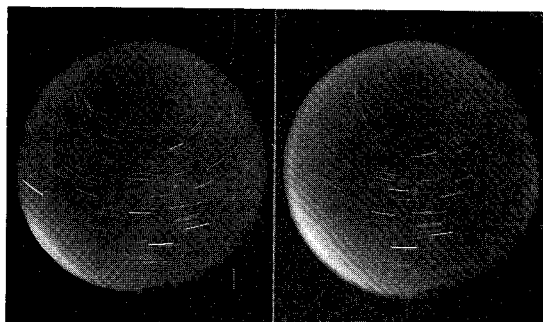
ここに持ちだした全天写真の2こまは堂平観測所で写したものである。そこでは大気酸素原子がだす波長558, 630 nmの輝線強度を、天頂に向けた光電測光器で開所以来測っているのだが、自動観測をしているため、空が本当に晴れているかどうか必ずしも明らかでないのがこまる。そこで1968年から全天カメラで写真を撮って空を監視している。夜の間に1枚の割合で自動的にこまを送っていて、各こまには1時間の星の軌跡が写る。それを調べて雲の有無を判断するというわけだ。レンズはF8と暗いものだが、フィルムを仔細に点検すると、人工衛星・飛行機・雷・流星などがときどき写っている。もっとも、UFOなるものは写せたことがないという。ベトナム戦争のときは、夜な夜な横田を発ったらしい飛行機の影も写った。ここにのせた2こまは1969年と75年との真冬の快晴の夜の空である。よく較べると数年のあいだに堂平の空がまた明るくなったように見える。変化が大きいのは北と西の地平線で、地方都市が発展してきたためだ。

写真は晴れた夜だけでなく曇や雨の夜の分も揃っている。デイルイト・スイッチでカメラが働き始めるように

なっていて、夜が来さえすれば動きだすから。

\* \* \*

そこで富田弘一郎さんのいわく、勤務評定をしているのではないんだろうなあ、まさかとは思うけれど。



1969年1月17日 1975年1月14日

(写真提供 高地 厚・宮下曉彦)

### ◇ 1月の天文暦 ◇

日 時	記 事
3 19	地球近日点通過
5 20	小 寒 (太陽黄経 285°)
21	望
6 17	水 星 内合
13 5	下 弦
16 5	木 星 留
19	月 最近
17 16	水 星 留
19 23	朔
20 13	大 寒 (太陽黄経 300°)
23 18	冥王星 留
24 21	金 星 東方最大離角
27 14	上 弦
28 15	月 最遠
29 9	水 星 西方最大離角

### ◇ 1月の日月惑星運行図 ◇

